

オンデマンド

最先端技術紹介

(農業研究センター作物関係、園芸関係)

受講料無料

ステップアップをしたい方向け

オンライン併用

—

サテライト講座

×

開催日	いつでもご都合の良い時間に受講いただけます。
会場	オンライン開催
主な対象	県内の農業者
定員	—
講師 (※収録当時)	農業研究センター農産園芸研究所 研究員 生産環境研究所 研究員 アグリシステム総合研究所 研究員
講座の狙い	県農業研究センターの最新技術を紹介(作物・園芸関係)
講座の概要	<p>県農業研究センターでは、「くまもと農業の未来発展につながる新品種の開発・選定」「生産性の向上を目指した革新的な生産技術の開発」「環境にやさしい農業を推進する技術の開発」に取り組んでいる。</p> <p>そこで、本講座では農業研究センターの作物関係及び園芸関係の最新の研究成果について学ぶ。</p> <p>※本講座は令和7年度(2025年度)農業研究センター農産園芸研究所、生産環境研究所及びアグリシステム総合研究所合同成果発表会をYouTube配信します 〈発表成果 一部抜粋〉</p> <p>作物部門 「水稻「くまさんの輝き」における中干し期間拡大がメタンガス発生量並びに収量・品質に及ぼす影響」</p> <p>花き部門 「湿地性カラー「熊本FC03」および「熊本FC01」の特性」</p> <p>野菜部門 「高設栽培におけるイチゴ「ゆうべに」の頂花房の最適な着果数」 「冬春トマトを収穫後 15 日間貯蔵した後も、棚もち期間の品質が保持される貯蔵条件」 他</p>
受講上の注意	<p>・本講座はYouTubeを利用して配信しており、事前登録制です。</p> <p>・受講を希望される方はGoogleアカウント(Gmailアドレス)をお知らせください。</p> <p>・オンライン講座接続時の通信料等は自己負担になります。</p> <p>・後日アカデミー講座に関する学びの効果を検討するため、アンケート調査を実施しますので、ご協力をお願いします。</p>



電子申請の受講
申込QRコード

令和7年度(2025年度)農業研究センター農産園芸研究所、生産環境研究所
及びアグリシステム総合研究所合同成果発表会

分野	発表課題名	所属	発表者
作物(水稲)	01 水稲「くまさんの輝き」の高品質安定生産のための適正な㎡当たり籾数	農産園芸研究所 作物研究室	研究主任 出田 太郎
	02 ドローン空撮画像から得られたNDVI による普通期水稲「くまさんの輝き」の生育量の推定	アグリシステム総合研究所 生産情報システム研究室	研究員 林田 亮太
	03 水稲「くまさんの輝き」における中干し期間拡大がメタンガス発生量並びに収量・品質に及ぼす影響	農産園芸研究所 作物研究室	研究主任 犬童 淳一郎
	04 水田からのメタンガス発生量は秋から冬の耕起と中干し拡大で削減できる	生産環境研究所 土壌環境研究室	研究主任 宇梶 徳史
	05 水田への有機物連用によるメタンガス発生量への影響と土壌の炭素含有率向上効果	生産環境研究所 土壌環境研究室	研究主任 田中 一成
花き	06 宿根カスミソウ「アルタイル」の収穫日は発蕾日からの日平均気温で予測できる	農産園芸研究所 花き研究室	研究主任 矢北 舞子
	07 湿地性カラー「熊本FC03」および「熊本FC01」の特性	農産園芸研究所 花き研究室	研究員 日名田 祐希
	08 アリウム「丹頂」1月出荷作型では、球根冷蔵期間が長いほど収穫期が早い	農産園芸研究所 花き研究室	研究員 迫田 裕太
野菜	09 高設栽培におけるイチゴ「ゆうべに」の頂花房の最適な着果数	農産園芸研究所 野菜研究室	研究員 梅田 健吾
	10 イチゴ「ゆうべに」における個葉の光合成速度に与える温度、CO2濃度、光の影響	農産園芸研究所 野菜研究室	研究主任 深水信太郎
野菜 (病害虫)	11 年明け短期作型の施設トマト有機栽培における病害虫の発消長と有機JAS対応薬剤の防除効果	生産環境研究所 病害虫研究室	研究参事 福永 悠介
	12 熊本県内で初確認されたトマトキバガ個体群の中老齢幼虫に対する薬剤の殺虫効果	生産環境研究所 病害虫研究室	研究員 川本 牧葉
野菜 (鮮度保持)	13 冬春トマトを収穫後 15 日間貯蔵した後も、棚もち期間の品質が保持される貯蔵条件	アグリシステム総合研究所 野菜栽培研究室	研究員 古閑 詩織
	14 冬春どりキャベツを加工・業務用に収穫後6週間以上鮮度保持ができる貯蔵条件	アグリシステム総合研究所 野菜栽培研究室	研究員 長田 萌里